

—85年の歩みをふり返って—



学校法人 福岡ルーテル学園

和田憲明
(牧師・園長)

恵泉幼稚園

<宣教師たち「ふたりのヘレン」>

恵泉幼稚園のために、生涯を捧げてくださったおふたりの婦人宣教師がおられました。一人はヘレン・M・シャーク師、もう一人はヘレン・H・ハーダー師です。お二人ともそのファースト・ネームは「ヘレン」です。言わば「ふたりのヘレン」の功勞の上に、今日の恵泉幼稚園があります。創立50周年の時、ハーダー師は米国から幼稚園にプレゼントされた聖画「富める青年」(現在もホールに飾られています)について、《あなたに欠けているものがまだ一つある。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。》(ルカ18章22節)の通り、み言葉の種を蒔き続けることや全存在をかけて子どもたちを愛することの大切さを語られました。さらに「ふたりのヘレン」の働きは幼稚園だけでなく、同時に箱崎教会をも興します。箱崎教会の礼拝は創立当時、幼稚園のホールで守られていました。週末になり園児が帰宅すると、子ども用品は片付けられ、日曜日の礼拝に備えたのです。ですから、恵泉幼稚園と箱崎教会は初めから今日に至るまで車の両輪の如く、福音を担っているのです。

<沿革/1931年(昭和6年)>

~1945年(昭和20年)終戦まで>

恵泉幼稚園は1931年(昭和6年)10月、ヘレン・M・シャーク師が設立に関わり、当時、糟屋郡箱崎明治町の永田氏の家屋を借りて「箱崎幼稚園」という名前で開園しました。初代園長はシャーク師、教諭は2人、園児は約40名でした。それ以来、今年2016年(平成28年)までの85年間、園長12名、園長代理4名、チャプレン4名、教諭90名、職員17名の奉仕を得て今日に至っています。

1936年(昭和11年)10月9日、九州大学工学部裏の現在の地に、総工費9,300円で幼稚園園舎が完成しました。この時、「箱崎幼稚園」から「箱崎恵泉園」と名称が変更されます。シャーク師はこの頃のことを「新園舎が空高くそびえるたくましい松林の中に建てられた時、この建物が箱崎の町のために役に立つ存在となるのがわたしの祈りでありました。神さまはこのわたしの祈りにまさる恵みをもって答えてくださいました。すなわち、幼稚園、教会学校そして教会を通して多くの活動がこの建物によって行われたわけでありました。」と、振り返られています。そして、

この「新しい冒険を成功させるために」と、多くの援助を惜しまれなかった博多教会の方々に感謝したい、といわれるのです。博多教会の南博幼稚園は1913年(大正2年)にL・S・G・ミラー宣教師によって建てられ、後にシャーク師が園長として引き継がれ、内容を充実させ、設備拡充を計られました。この南博幼稚園運営のノウハウが、この幼稚園にも生かされたことは言うまでもありません。当時、地域のご好意を得、園児も増加傾向にあり、母の会、卒業生、地元有志から多額の寄付金が寄せられた、と記録されています。

しかし時代は急速に戦争へと傾斜し、1940年(昭和15年)初代園長シャーク師は帰国せざるを得なくなります。同年9月より新生館におられた坂根利永(さかねとしなが)牧師が、園長を引き継ぎます。この頃、後に園長を引き受けることになる田坂惇巳(たさかあつみ)牧師は、雁ノ巣飛行場が近いためにシャーク師が、憲兵隊や特別高等警察から必要以上に疑いの目で見られ、度々不愉快なことも経験されておられたであろう、と案じておられるのです。その要因は、とくに「奈多愛育園」を開くために伝道されていたから、とあります。しかし、シャーク師が心血を注ぎ、祈りを込めて育て上げられたことが後に奈多愛育園と聖ペテロ教会の創設につながるのです。1941年(昭和16年)12月8日太平洋戦争が勃発し、幼稚園は試練と多難に満ちた時代を迎えます。1942年(昭和17年)3月、田坂牧師が園長に就任した翌年1943年(昭和18年)日本軍の召集を受け、田坂初枝婦人、江頭道子先生が幼稚園を守らねばなりません。そして1945年(昭和20年)6月19日福岡市大空襲のため、幼稚園は閉園を余儀なくされるのです。

<終戦後~1965年(昭和40年)>

「ふたりのヘレン」帰国まで>

やがて終戦を迎え、日本は戦後復興の時代を迎えます。終戦直前に兵隊から戻った田坂牧師により、同年10月に幼稚園は再開されます。戦後民主主義的な思想が広がり、教会の伝道活動も幼稚園の保育事業も、その日その日が楽しくてならないという程進展していったと、当時の田坂牧師の記録に残っています。やがて田坂牧師は米国に留学することになり、1948年(昭和23年)9月、再びハーダー師が園長に就任されます。1949年(昭和24年)11月4日には福岡県知事より設置認可を受け、「箱崎恵泉園」から現在の「恵泉幼稚園」に名称が変更されます。名称の由来は、旧約聖書の《主は常にあなたを導き、良き物をもってあなたの願いを満ちたらせ、あなたの骨を強くされる。あなたは潤った園のように、水の絶えない泉のようになる。》(イザヤ書58章11節/口語訳)から取られたものです。この頃の様子をハーダー師は、「終戦後、

幼児教育に対する一般の関心は高まり、入園希望者も多くなり当時も定員50名のところ130名の園児をおあずかりすることになりました。」教室が狭くなったので、台所とテラス、さらに二階の先生方の部屋も改造して二学級に変えたと述べられています。戦後の第一次ベビーブームを思わせられます。

1950年(昭和25年)ハーダー園長は約6年の間一時帰国されますが、その間四人の邦人牧師が園長、園長代理として奉仕されました。1956年(昭和31年)から再びハーダー師が戻られ園長に着任されます。以来1965年(昭和40年)まで、園児、母の会、教師の指導にあたられ、本園の建学の精神を揺るがぬものとされました。ハーダー師は「今までのようにアメリカからの援助でなく、自分の手でこの幼稚園の成長をお手伝いしようと望むようになりました。」とあり、この願いどおり恵泉幼稚園は自給の道を歩み始めるのです。

当時、ハーダー師と保育を共にした伊藤保子前園長は、その当時の様子を懐かしく語ってくださいました。「ハーダー先生は、当時一斉保育の幼稚園が多かった中、遊びを中心とし、子どもの個性を大切にされた保育を教えてくださいました。ハーダー先生ご自身がピアノを弾かれ、子どもたちが自由に動物や乗物になって表現をしたのです。米国でのリズム表現の本も沢山今でも園に残されています。また聖書のお話しも担当してくださいました。教育要領が変わっても、現在に通じる保育が今も続けられています。」と。しかしついに1965年(昭和40年)創立者であり初代園長だったシャーク師、当時の園長ハーダー師は、それぞれ任を終えられ米国へ帰国されるのです。

<「ふたりのヘレン」帰国後1965年(昭和40年)～学校法人化2001年(平成13年)まで>

「ふたりのヘレン」の意思を受け継ぐべく幼稚園は、1966年(昭和41年)少人数クラス編成遂行のため、箱崎教会敷地内にプレハブ2保育室を増設します。そして創立50周年を機に1980年(昭和55年)に全面改築し、7保育室を擁する鉄筋コンクリート2階建ての現在の園舎が完成しました。その後も、福岡空港騒音防止対策事業による防音工事などが進められ、現在も建物、環境は維持されています。また、この頃まで団塊ジュニア世代、いわゆる第2次ベビーブーム世代が幼稚園の周辺地域から集っていましたが、都市のドーナツ化現象、少子化という時代の流れを受け園児数は次第に減少していきました。そこで1995年(平成7年)に通園バスを導入しました。その結果、より広い地域から子どもたちが集うようになりました。同時に70年にわたる創立者の精神を絶や



すことがないよう、学校法人化に向けて準備を進めます。1998年(平成10年)に学校法人志向園として認定を受け、2001年(平成13年)2月に福岡県より学校法人の認可を受け「学校法人福岡ルーテル学園」を設立します。同年4月より学校法人として安定した歩みが続けています。

<学校法人化2001年(平成13年)

～創立時からのミッションを引き継いで>

このように「ふたりのヘレン」や奉仕された先人たちは、恵泉幼稚園や箱崎教会にキリストの福音を宣べ伝えてくださいました。今、この創立時からのミッションを引き継ぐ私たちもまた、次世代に残すべく、宣教の働きを託されています。

大切にしてきた恵泉幼稚園の保育方針は、キリスト教の愛の精神を基盤として思いやりの心を育てること、幼児の生活そのものである「遊び」を通し一人ひとりの個性を大切にしていくこと、そして、自分や友達の生命の尊さを知り、共に平和をつくりだしていくことなどでした。さらに親子関係を育てるプログラムの充実もはかってきました。乳児の時から参加できる「わらべ歌」、「親業」、「育児と育自」など、子育てをしながら親も成長していくことを願っています。また日曜日は、幼稚園園児を対象とした教会学校も盛んで、親子そろって参加される方も少なくありません。卒園しても、今度は教会の礼拝堂で行う小中高生を対象とした教会学校につながります。教会学校の教師も元幼稚園教諭を中心に行われています。このように、幼稚園と教会が手を取り合い、より良い関係を保ちながら、取り組んでいることがこの幼稚園の特徴といえます。

幼稚園の将来を見据えたとき、現在の立地条件からくる課題も見えてきます。幼稚園のある福岡市東区の海側は、人工島開発が進められ人口も増加し、さらに幼稚園裏の九州大学が糸島の新キャンパスへの移転も進められ、2、3年後に完了予定です。跡地は福岡市内の都心からも近く、利便性の高いところでマスタープランも見えてきました。このように可能性の秘めた地域ですから、今まで引き継いできた伝統を、さらに次の時代へとつなげていきたいのです。2015年(平成27年)度卒園児数は総計4000名越となりました。先人の残してくださった教育を継承し、在園児や未来の園児たちのために、福音を届けるべく、祈る日々です。

「祝福に満たされた、こころ育む幼稚園」として。

※『キリストの愛を伝え共に成長するー未来を愛する希望を生きるー』(るうてる法人会連合/2009年リトン社)『恵泉幼稚園78年の歩み』和田憲明を(一部訂正・加筆)しました

2017(H29)年度 園児募集中！お気軽に、ご相談ください